

第38回COSPAR科学総会

(38th COSPAR (Committee on Space Science) Scientific Assembly)

開催期間: 2010年7月18-24日、開催場所: ドイツ、ブレーメン

(元)宇宙航空研究開発機構 研究開発本部 宇宙環境グループ
五家建夫

本年3月末JAXA離職後に、COSPAR(2年毎)の議長職の役目が残っていたが、本御支援のお陰でCOSPARに参加でき、議長職と別の副議長職を無事務められたので報告します。開催地のブレーメンは、昔コーヒー豆や綿花等の貿易で栄えたハンザ同盟の古い貿易町と、欧州唯一の落下塔(ZARM)、DRL、EADS Astrium、エアバスなどのドイツの航空宇宙産業の中心地の両方の性格をもつ町である。今回のCOSPARは、“Space Exploration & Global Change”を主題に59カ国から約3800名の参加と4500件の発表数の大規模な開催となり町をあげて歓迎された(トラムの無料使用など)。図1はコンベンションセンターの前で撮影。

私が議長職(MSO: Main Science Organizer)をしたのは「ISO宇宙環境モデルの科学者ピア・レビュー(C01)」で、国際宇宙規格の宇宙環境分科会(ISO/TC20/SC14/WG4)で各国から提案中の宇宙環境モデルを科学者が審査するセッションである。今回は口頭発表が8件、ポスターが2件あり、大気モデル、電離圏モデル、シングルイベント計算モデルの更新(CRÈME-MC)などの最新モデルを議論した。研究成果は論文だけで終わらせず国際規格化し国際貢献すべきと考えており、現在、日本から4件の宇宙環境モデルをISOに申請中である。私の後任議長はV. Kalegaev(露)、新副議長に北澤幸人氏(IHI)にお願いした。図2は右から私、前議長のM.Panasyuk(モスクワ大教授)、副議長のG.Drolshagen(ESA)とK.Tobiska(米)である。

私のもう一つの副議長職は、「放射線帯モデル(PRBEEM)」セッションで、13件の口頭発表と7件のポスター発表があった。「JAXAの放射線帯の動的モデル」の共著論文を発表した。私の後任の新副議長に三好由純氏(名大STE研)をお願いした。国際宇宙ステーションの船外に昨年設置した宇宙環境計測装置(SEDA)の計測結果も共著論文で発表した。そのほか、デブリ関係(3日間)などに出席した。今年の4月5日の静止衛星Galaxy-15の軌道上故障は宇宙環境起因(内部帯電)でも、デブリ関連(静止衛星同士の接近問題)でも議論の対象となった。会議中、懐かしい常連の方々と旧交を温め、後任の小原隆博宇宙環境グループ長を紹介してまわった。

